

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

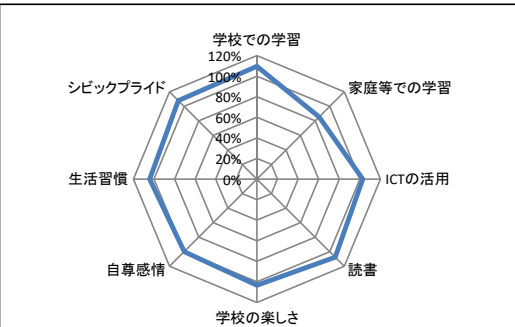
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均をわずかに上回っている。問題によって偏りがあり、正答率が全国平均を下回っている問題も多い。無解答率が後半になるにつれて高くなっている。漢字の問題、思考力・判断力・表現力を「読むこと」の領域に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの項目の平均正答率が全国平均を下回った。特に、「図形」に関する問題「分数」に関する問題に課題がある。定期的に復習をする機会を設ける必要がある。記述問題では、無回答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加数が、共通する単位分数のいくつかを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を下回っているが、全国平均を上回っている問題も多かった。4年生で学習した内容に関する問題の正答率が低かったため、算数と同様に定期的に復習する機会を設ける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼすべての領域で全国平均を上回っていた。特に、「学校での学習」については、すべての質問で全国平均を大幅に上回っていた。 ・「心の育ち」についての項目のうち、「人の役に立つ人間になりたいと思う」との問いに対しては、肯定的な回答が100%であった。しかし、「自分には、よいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の問いに対しては全国平均を下回っていた。自己肯定感や有用感を高める必要がある。 ・「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか」については、全国平均をかなり下回っていた。家庭学習の大切さを周知し、自主学習の推進等にも力を入れていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・漢字練習を多く取り入れたり、漢字テストを適宜実施したりして、児童の定着度を確認する。
- ・現在学習している内容だけではなく、小学校で学習した内容の復習や力だめしができる時間を確保する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

熊西中学校区では、9年間の学びに関する目標を「自ら考え、表現し、主体的に学ぶ子どもの育成」としている。児童が主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、小中で連携していく。また、校内では、家庭学習時間の目安を通信や懇談会で周知したり、参考になる自主学習ノートを掲示したりして、家庭学習の充実を図る取組を行っていく。